

考古編資料調査から 橋本・瑞光寺遺跡発掘調査

市史続編『考古編』編さんのための資料調査は、今年度から縄文時代の調査に入りました。相模原市域では現在まで、規模の小さいものを含めて約 300 件の発掘調査が行われています。このうち、縄文時代の遺構や遺物が発見された調査は 200 件近くあり、時代別に見みると縄文時代の発掘調査事例が最も多い結果となっています。市域における縄文時代遺跡の調査は、大正 15 年の大山柏による勝坂遺跡の調査、昭和 4 年の鳥居龍蔵による大島坂上の敷石住居址の調査などが先駆的な事例として知られていますが、このころは記録が不十分であり、出土遺物も現在に伝わっていません。記録性が充実してくるのは昭和 40 年代後半からのことですが、それよりも前の昭和 36 年 7 月、橋本で小規模ながらも縄文時代遺跡の調査が行われていました。これが、東京都立八王子高校社会科研究部が行った瑞光寺遺跡発掘調査です。調査地点は元橋本町にある曹洞宗瑞光寺の西側の地点で、遺跡名はこの瑞光寺にちなんだものです。

調査の届け出によると、「多摩丘陵に於ける縄文時代の遺跡の分布と特質に就いての研究」が調査目的となっており、調査担当者として同校社会科の長友博・^{ながともひろし} 梶國男^{くぬぎくにお}の両教諭が当たり、日本考古学協会の^{こうのいさむ} 甲野勇^{いさむ}らが調査指導を務めました。そして、7 月 25 日から 27 日の 3 日間、社会科研究部員 24 名と玉川学園中等部生徒 9 名が参加して調査が行われました。調査した面積は 50 m²ほどの限定的な範囲でしたが、縄文時代中期後半の土器が埋設された遺構が発見され、



平板測量や写真撮影を行って終了となりました。調査後には出土遺物の整理復元もなされ、翌年 4 月発行の『多摩考古』第 4 号に調査結果が報告されています。担当者の梶氏は、当時の高校生の間では考古学に対する関心が非常に高く、早く遺跡調査を経験したいという生徒たちの強い希望に後押しされて実施に至ったと述懐されています。また、昭和 36 年 6 月 25 日付けで文化財保護委員会（文化庁の前身）事務局長あてに提出した「埋蔵文化財発掘調査届」の控えが保有されていますが、これは現時点で確認できる市域で最初の発掘調査届です。

なお、調査場所は後に国道 16 号バイパスとなり、工事に先立って昭和 56 年から行われた橋本遺跡調査では、この時の調査の跡が確認されました。瑞光寺遺跡調査資料は、市域の考古学研究史に欠くことのできない資料です。

（副主幹 山田不二郎）

瑞光寺遺跡調査風景（梶國男氏提供）

現代編資料探訪・下



相模ダム建設労働者募集チラシ

1947（昭和22）年6月16日付の神奈川新聞（1829号）は、「平和再建の大動力」という見出しで、相模ダムの竣工記事を1面で報じています。

日中戦争が拡大するなか、政府と神奈川県は、横浜・川崎への工業用水の提供、電力供給、相模原地区の水田開発を目標に、津久井郡に大規模なダムを建設することを計画しました。1938（昭和13）年1月、神奈川県議会臨時会の最終日に議決された、神奈川県相模川河水統制事業です。

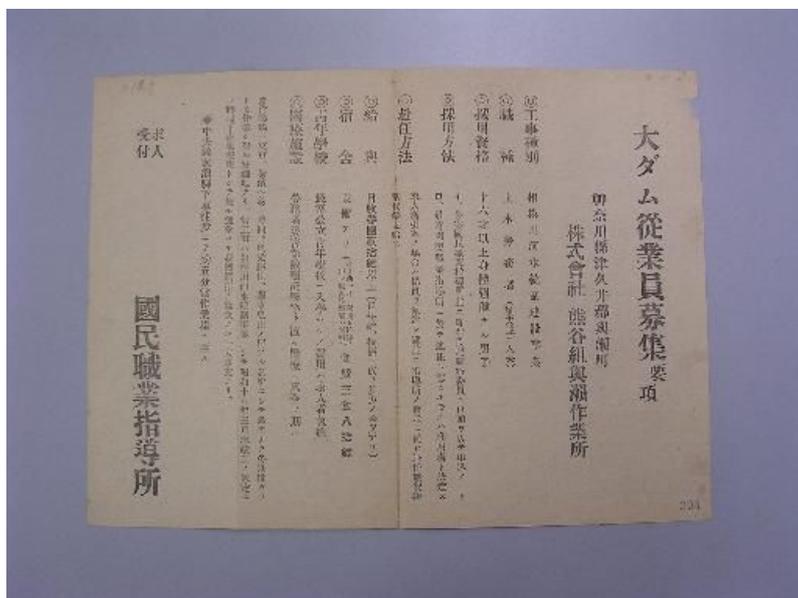
日本初の河川総合開発事業として、基幹事業となったのは、相模ダムの建設でした。全国に先駆けた人造湖の建設は1941（昭和16）年6月に開始され、のちに「相模湖」と名付けられました。

写真のチラシは、同年、旧所蔵者が県立相原農蚕学校（現相原高等学校）在学中に発行されたと推測されるものです。工事の本格化する1943（昭和18）年から翌年にかけては、同校の生徒も、現場に動員されました。

このようなチラシやポスター（津久井郡郷土資料館所蔵）は、延べ360万人という大量の労働力を必要とするダム建設の労働者を募るために使用されましたが、戦局の進展とともに、慢性的な労働力不足にあえいでいた戦時下での応募は少なく、工事全体の半分以上は、中国人兵士の捕虜や、朝鮮半島から強制連行された人たちの労働によって建設されました。

また、ダム建設により、湖底に沈むことになった日連村勝瀬地区（現津久井郡藤野町）を中心とする136世帯のうち、大部分の人たちは遠隔地まで分散して移住することを余儀なくされました。吉野町反田前地区（現津久井郡藤野町）からは、3世帯が、相模原町大島の相模川沿いに移住しています。

神奈川新聞にダム竣工を報じた安部記者は、将来の相模湖における観光開発の実現こそ、水没した地域と「大工事のかげの尊い人柱にむくゆるものである」と記事を結んでいます。（調査員 五味 ゆかり）



「大ダム従業員募集要項」（株式会社熊谷組与瀬作業所 1941（昭和16）年 市史編さん室所蔵）文末には、「昭和十八年三月末竣工ノ予定」、「我国屈指ノ緊急ナル一大事業ナリ」とある。

前市史編集室の

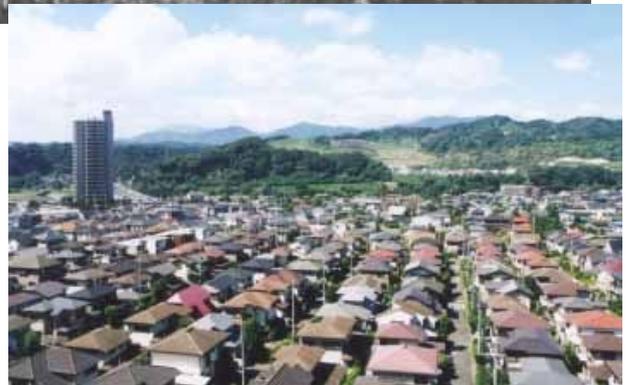
写真から 17

写真は 1964(昭和 39)年に撮影されたもので、田名の久所(ぐぞ)地区方向を見た風景です。中央左の高田橋は、1929(昭和 4)年に架けられた 2 代目の橋です。



江戸時代、久所は大山参りの人々が相模川を渡る、大山道の要所となりました。また、昭和の初期までは、相模川で捕れる天然アユを求めて、多くの観光客がやってきました。当時は、相模川の水量は現在よりも多く、屋形船が川面に浮かび、鵜飼も行われていました。

下の写真は 2002(平成 14)年に撮影したものです。以前は水田だったところに住宅団地が完成し、風景は大きく変わりましたが、遠方にはかつて多くの人が目指した大山が変わらずに見えています。

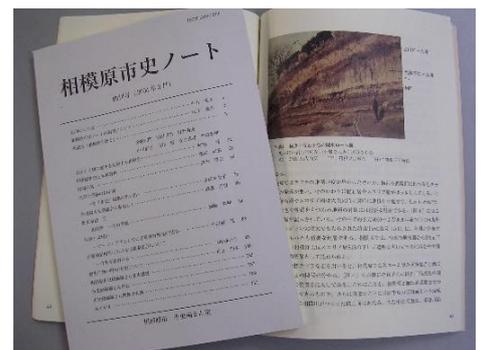


(主任 方波見 淳)



○「相模原市史ノート」刊行

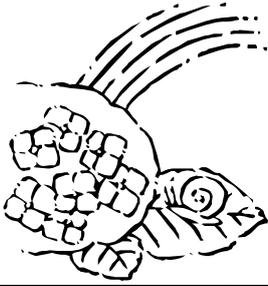
市史続編編さん事業の状況や研究成果をお知らせする「相模原市史ノート・創刊号」(A5判・111ページ)を刊行しました。今後毎年1冊発行していく予定です。創刊号では「市史続編編さん事業の意義とその進め方」をテーマにした編集委員会委員による座談会や、研究者が専門のテーマについてわかりやすく説明した文章、講演会の要旨などを掲載しています。お求めは、直接市史編さん室か市役所行政資料コーナーへどうぞ! また、遠方の場合送料実費で郵送の取扱いもいたします。詳細は、お問い合わせください。



350円で、好評発売中

○訃報 ～^{おさだ}長田かな子氏～

市史編さん審議会委員の長田かな子氏が6月、お亡くなりになりました。謹んで御冥福をお祈り申し上げます。



編さん室の動き (5月～6月)

月	日	内 容
5	1	市史編さんだより第18号発行 現代図録編執筆者浜田氏が調査に来室(27日にも来室)
	7	現代図録編作成委託業者と打ち合わせ(18, 28日にも実施)
	11	博物館防災訓練に参加 市制50周年記念展について博物館と打ち合わせ(20日にも実施)
	15	近現代部会市内巡検・会議開催
	19	津久井町史編さん担当来室
	25	個人所有歴史資料借用
	26	神史協研修会総会に出席(県立公文書館)
	6	3
4		文化遺産部会会議開催
5		現代図録編執筆者浜田氏・羽田氏が調査に来室
6		民俗部会会議開催
15		現代図録編作成委託業者と打ち合わせ(17, 22, 24日にも実施) 市制50周年記念展について広聴広報課・企画政策課と打ち合わせ(本庁)
16		近現代部会栗田委員が調査に来室
26		近現代部会会議開催

市史全7巻を割引販売中 ～特別価格1万円～

平成17年3月31日までの期間限定で、昭和39年から47年にかけて刊行された相模原市史全7巻をセット価格1万円で販売しています(通常価格21,300円)。お問い合わせは下記へどうぞ。

「さがみはら市史編さんだより」第19号

発 行 2004(平成16)年7月1日
 編 集 相模原市総務部総務課市史編さん室
 〒229-0021 神奈川県相模原市高根3-1-19
 TEL 042(750)8025 / FAX 042(750)8039
 E-MAIL : shishi@city.sagamihara.kanagawa.jp